子供たちの「よりよいひとりだち」のために

学び向上　中津川プラン　～令和５年度全国学力テストの結果から～

※全国学力テスト（「全国学力・学習状況調査」）とは、国語と算数（数学）、理科（令和５年度は実施なし）、英語の基本的な知識・技能と活用の力を測るテストと、学習や生活についての意識調査を行うものです。（小６と中３対象）

【市全体の結果】

中学校数学は改善傾向です。国語、小学校算数、英語は課題が残ります。

【学力を伸ばすポイント】

「読み取ったことを伝え方を考えて書く力」（読解力・文章力）「あきらめず、ねばり強く取り組む力」（持久力）「できた、わかった、おもしろい、好きだ」（関心意欲）です。

【学力テスト】

- 国語の「話すこと・聞くこと」の正答率が向上しています。「書くこと」「読むことに」課題が残ります。目的や意図に応じて文章を読んだり、書いたりする経験を積み重ねることが大切です。
- 算数・数学は、中学校で全国平均との差が縮まっています。「思考・判断・表現」を問う記述式の問題で課題が見られました。答えを導き出す過程を操作として覚えるのではなく、なぜそうなるのかを丁寧に理解しながら追究することが大切です。
- 英語は、「読むこと」で全国平均との差が縮まっています。課題は「書くこと」です。伝えたい内容を整理し、身に付けた文法・語彙で書く経験を積み重ねることが大切です。

【意識調査】

- 生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん等）は概ね定着していますが、コロナ禍前と比べると、やや低下傾向にあります。
- 自分で計画して勉強する子の割合は全国平均を上回っていますが、一人あたりの学習時間は全国平均を下回っています。
- 学校や地域の図書館利用率が全国平均を上回っています。また、小学生では読書が好きだと答える割合、中学校では読書時間が、それぞれ全国平均を上回っています。

◆市全体で、学力アッププログラム（生活・学習習慣づくり）・絆プランを続けている成果です。

◆学力向上のためには、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と家庭での学習時間を増やすことが必要です。

■市では

- 学校を訪問し、子供たちの姿を通して、よりよい指導について指導・助言をします。
- 先生方が主体的に学べる職員研修を工夫します。
- 絆プラン（読書）を進めます。

今後さらに！

■学校では

- 「学力向上一点突破」（各学校の学力を向上させるポイント）や学力テストで明らかになった自校の課題改善に取り組みます。
- 「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めます。

■家庭では　学力アッププログラムと絆プラン（読書）の継続と認め励ましをお願いします。